

会 議 録

会議の名称	第4回 中野市総合戦略会議
日 時	平成27年9月15日(火) 18:30~20:00
会 場	市内
出席者等	<出席者> 委員：前澤憲雄(会長)、上野見(副会長)、小野建一、宮川浩、関貴彦、渡辺信也、三枝康雄、山口和彦、山下健一、山口美緒、相子靖子、内山奈月、吉原明彦 市：大堀総務部長、小橋政策情報課長、柴本、青木 <欠席者> 委員：高橋一隆、山浦直人、本間直幸 <傍聴者> 2名
次第	1 開会 (進行：総務部長) 2 あいさつ (会長：前澤憲雄) 3 報告事項(小橋政策情報課長) ・今後のスケジュールについて《資料1》 ・第3回総合戦略会議のまとめ《資料2》 ・その他《資料3》《資料4》 4 意見交換 【テーマ：人口定着を目指す積極的施策について】 5 その他 次回開催予定：平成27年9月29日(火)午後6時30分 6 閉会
発言内容	別紙のとおり

【別紙】

第4回 中野市総合戦略会議

平成27年9月15日（火）

18：30～20：00

市内

1. 開会（18：30）

総務部長	<p>定刻になりましたので「第4回総合戦略会議」を開会します。</p> <p>ただ今の出席委員数は12名であり、過半数に達していますので会議は成立しております。はじめに、前澤会長からご挨拶をお願いします。</p>
------	--

2. あいさつ（前澤会長）

会長	<p>秋らしい陽気になってまいりましたが、テレビ等で報道されていますように、茨城県にて大きな災害が発生しております。天災とはいえ、あのような状況を見ますと、安心安全なまちというものに対する想いを改めて考えさせられます。天災なので仕方のないものもありますが、その中でも人の力がどのように発揮されるかと、市町村のレベルの違いもあるが、普段の暮らしにおいても学ぶべきこともあるかと思えます。より一層住みやすいまちづくりを目指し、委員の皆様から活発なご意見を頂戴できますようお願い申し上げます。</p>
総務部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、以降の進行を前澤会長にお願いしたいと思います。</p>

3. 報告事項

・資料に基づき、政策情報課長より一括説明

委員	<p>市民懇談会を予定しているとのこと、現在、総合計画と総合戦略の策定が同時進行しているが、総合戦略が先に出ていくのか。</p>
政策情報課長	<p>同時に説明していきます。</p>
委員	<p>内容的にはほぼ同じのものとなるのか。</p>
政策情報課長	<p>総合計画は、市全体の全ての計画を掲げたものとなる。総合戦略は、政策4本柱に特化したものを抜き出して示すものとなる。</p>
委員	<p>全体が総合計画で、その中に総合戦略がある形となるが、戦略は総合計画と同一路線であって、中身も同一なものがあるという考えでよいか</p>
政策情報課長	<p>そのとおりです。</p>
会長	<p>シルバー人材センターについて、現状の参加者（会員数）があまり増えていない。高齢者が増加しているが、会員数が伸びない理由は何か。</p>
政策情報課長	<p>細かな分析はできていないが、長野県は高齢になっても農業に従事している方が多いことが影響しているのではないかと。</p>

副会長	最近、シルバー人材センターにお話を聞いたのだが、定年が65歳というのが影響している。ピーク時と比較して会員数は減少しているが、県内でも会員数は多い方である。仕事では、農業関係が多く、特に果樹栽培は時期が重なっていることもあり、どこの農家でも人出は欲しいため依頼はあるとのこと。ただし、登録されている方は外での作業より、事務的な内業を好む方も多いため、仕事の依頼があっても対応できない状況もある。果樹等の繁忙期では、1農家で何日間も手伝って欲しいとの要望があり、会員の状況を考えながら対応している。仕事はあるため、何時でも会員登録は歓迎しているとの話しであった。
-----	--

4. 意見交換

【テーマ：人口定着を目指す積極的施策について】

会長	委員の皆様は置かれた立場は違いますが、人口定着にはどうしたらよいか、抽象的でなくより具体的なご意見をいただきたいと思います。
委員	テーマに定着とあるが、中野市は「定着」はしていると思う。ただ、流入人口が少ないと、高齢の方は亡くなってしまいうので、人口は減少してしまう。外から移住していただかないと、人口を維持するのは難しい。他の自治体も同じことを考えていると思うが、中野に来たいと思わせるような施策を考えていけないといけない。飯山市では人口減が深刻という中で、積極的な施策を講じている。やはり、仕事がないと生活できないので、働く場の確保は重要である。
会長	仕事となると、企業誘致などが必要となってくる。そのためには、どうしたらよいと思うか。
委員	長野市に近いということもアピールになる。仕事は長野市、生活は中野とかいいと思う。以前テレビで拝見したが、人口の半分が移住者という島がある。感じたことは、コミュニティがしっかりしている。消防団とか、若い人は入っていただけない現状があるが、入りやすい環境を作るといえるか、地区単位で何かをしなければいけないと思う。
会長	人口増には外から人を呼ぶことが必要とのことで、まだまだPR不足の面がある。
委員	移住された方に聞くと、自然の豊かさという意見が多い。リタイア後に移住された方のお話では、車が運転できなくなると都会に帰るとい話を聞く。飯山も同じだが、雪の多さがネックとなっている。 全国自治体の移住支援を調べたいとなると、インターネットで簡単に情報を集めることができる。様々な支援があるが、補助金を出すような施策が多いと感じる。個人的にはお金のかなと疑問を感じる部分はある。経済的な支援も重要だが、そこを全面に出していくのではなく、中野の魅力を違う形で発信していった方が効果的なのではないか。
委員	よく地域の方に野菜や花をいただくことがある。おもしろい話を聞かせてくれたりすることもある。中野はスーパーなども多く買い物などは不便なくできる都市機能を備えたところだと思う。一方で、田舎の良さみたいな部分もあ

	<p>る。ここだけのライフスタイルや魅力を発信していく、いきいきした農家の方を紹介していく。新聞記事で拝見したが、都会の人でも農業に興味を持っている方が多くいる。具体的に農業に従事している人の声を発信できればいいと思う。</p>
委員	<p>仕事の関係で、長野に行かなくてはいけない時、車がないと行きづらい。長野電鉄の運賃が高く、使いづらい面がある。</p>
委員	<p>中野をもっとPRしなくてはいけない。来てもらう仕組みを考えるべきであると思う。大イベントであってもいいし、例として、新鮮な野菜や果物があるので、陣屋あたりで1年中、市をやっている、そこで食事ができる場所があったりして、中野では何時でも新鮮なものがある。まずは、中野に来て、見てもらわないと、インターネットにしても、中々良さは伝わらない。とりあえずそのような仕掛けを作る。やはり、経済の活性化は重要である。</p> <p>きのこの一大産地であるので、大量に発生するきのこ培地を利用して、飼料化して有機野菜を作る。市を挙げて循環型農業をPRすることも面白いのではないか。</p>
会長	<p>市でも循環型農業を後押しするよう、参考にしてほしい。</p> <p>大イベントでは具体的なものはありますか。</p>
委員	<p>今、考えているのは、中野に来てもらうきっかけ。色々な要因はあると思うが、近隣のリゾート地に近く、これまでも様々な施策をやっていると思うが、実際何も響いていない。響かせるためには、響く世代、移住してもらう世代、20代から30代、40代の方もいる。いかにその世代に訴えていくか、市としてこういう「まち」と打ち出す。今もあると思うが、響いていない。実働的に現場でどうするかというと、来てもらう世代に、中野に住んでいる同世代の人間がもてなす。そういう環境を作る。例えば、移住者と同世代の農家の人たちが、こういう仕事で、こういうコミュニティの中でやっていますよと、発信していく。先ほどの朝市のように積極的にやらないと響かないと思う。中野に住んだらどういう人間がいて、何が面白くて、最初は小さくてもいいと思う。戦略の施策を見ても、いい事が書いてあると思うが、正直よくわからない。実際、こういう事をやるという実働的なことを考えないと何も進まない。農家の有志が集まって、朝市をやって、そこでご飯が食べれてと、最初は2、3軒でも構わない。同じ趣味趣向の人間で始めるので良いと思う。それを上手く市役所のマーケティングの上手な方にアウトソーシングを出してもらって、中野はこんなカッコいいことをやっていると発信し、またそれを継続していく。理想だけ言っても何も進まない、泥臭くやっていくことが必要。朝市でも、コーヒーのテイクアウトができる、そこで美味しいパンや新鮮な野菜が食べれる、山ノ内や飯山から朝ご飯だけを食べに中野に来る、それが定着すればいいと思う。そうなれば、中野にはこんなに美味しいものがあって、面白い場所にもなって、こんなにも優しい笑顔の人達がいっぱいいると繋がっていくし、伝わると思う。仕事が無いや電車が高いは昔から同じであり、変えなきゃいけないのであれば、もう変わっている。同じ気持ちでやっている人は多くいるので、そ</p>

	ういう方で「チーム」を作るべきであると思う。そこで、次のステップとして何かを作っていく。戦略の積極的施策に書いてあるように、具体的な行動を考えていかないといけない。
会長	実行できるチームは必要である。
委員	中野にも武器があるので、パワーある人達で考えていきたい。
会長	具体的に「朝市」という提案がありましたが、いかがでしょうか。
委員	そういうのが開かれるのであれば、是非、デザインを作らせて欲しい。若い人をターゲットにするなら、ポスターとか重要である。ダサいものには若者は来ない。よく知らないアイドルが来ますよとか、色だけ派手にしたものでは、全然魅力的には写らない。少しずつでも若い人向けにカッコよくしていくことは必要である。
委員	農家として、是非、やりたい。農協青年部とかではなく、個人として動かないといけない。
会長	飯山で「SAWAGOSA」というイベントがある。様々な職種の人が集まって始めたもので、最初は小さなイベントであったが、今では多くの人を集めるものになっている。 福岡市で昨年「きのこ大祭」というのを始めている。若い女性が発起人で、様々な職種の方を集めてやっている。若者をターゲットとした企画もあり、注目を集めている。
委員	市が外部に出て移住を勧めることも効果はあると思うが、中野に暮らす若者が市のことを如何にアピールできるかが重要であると思う。朝市も面白いと思うし、イベントにしても、例えば「きのこまつり」ではなく「きのこフェス」のような、言葉尻を変えるだけで若者は興味を持つのではないか。中野に来て、中野が面白いまちだなと感じたのが、雑誌KURAで数名の方が対談しているページを見て、新しいことを考えている方がいるのだと印象的であった。そういうものを外に出していければいいと感じた。
委員	「定着」を外から人が入ってくると考えれば、移住に際して具体的な暮らすイメージが湧かないといけない。以前の資料で、空き家バンクはあるが登録件数は非常に少ない。空き家バンクに取り組むのはいいと思うが、例えば、住むところに対して、こういう家がある、こういう働き口がある、そういうリストをしっかりとっておく。その上で、ただハローワークを活用するだけでは、移住を考えている人はイメージが湧かないと思う。情報をただ流すだけでなく、もう少しピンポイントで人を捕まえる必要がある。 最初の会議でも、人口は爆発的には増加しないという前提の中で、ピンポイントで人をしっかりと捕まえてくる。それを、これまでの議論でもあるように、発信という部分で、こういう人達がこういう暮らしをしますという発信をしていく。そこで、こういう暮らしができるのだと、具体的な内容とイメージがあるといいと思う。さらに、チームという話があったが、個性がたったチームがいくつもあって、そこが支援する体制があれば面白いと思う。若者はまちの活性化には大切であり目を引く。加えて、上の世代の人達が幸せに暮らして

	<p>いるまちは幸せにみえる。仕事上、たかやしろファームの社長に話しを聞く機会があるが、将来にわたり農地を守っていくという意気込みが強い。そのような方がいるまちでは、農業についての相談などができるなど感じるし、そのような方のチームがあってもよいと思う。消防団などの地域活動にしても、外から来た人は入りづらいと思うこともあるが、今、地元の神楽保存会に入っており、それを始めてから、まちに暮らすということはこういうことなんだと実感している。そういうチームがあるという存在を出していく、若者だけでなく年配の方でも打ち出していく。具体的な暮らすイメージが伝わるのではないか。</p> <p>「人口定着」について、最初は既に住んでいる人を定着させるのかと思ったが、その点でいうと、来た人は定着しているのではないか。その要因を分析する必要はある。新しい施策も大切だが、既に実施している施策がどのように効果的に効いていて、そこを更に重点的にやるのか、プラスα抜けている部分がどこなのかの分析があった上での様々な施策であると説明してもらえると、説得力があると感じた。</p>
会長	具体的に発信していくことが共感を呼ぶのだと思う。
委員	<p>具体的施策の「稼ぐ力を強化する」という部分で話しをする。具体的施策に色々な事を掲げているが、具体的にどう動くかと考えた時に、市として住む人を増やすのか、人は増えないが魅力ある稼ぐ力を増やすか、その2つをどうするか。企業支援という部分で、本社でも支社でもよいが、中野に会社を置けば何か魅力的なものがある。企業が中野に事務所を置きたい、従業員も置きたいと思わせるような、中野を通してでも外に発信できるような仕組みができればと思う。魅力があれば、起業家も集まるのではないか。</p> <p>人のネットワークは重要であり、サロンのようなところでクリエイティブな話しができる場や、空き家の有効活用を図ることもいい。若者世代や新しい人達に刺激を与える仕組みづくりは必要である。有効活用できる空き家、魅力的な空き家を精査する必要はある。</p>
委員	外部の方が中野を移住先の候補としていただいた時に、相談する場所を作ることは必要である。ただ、インターネット上に情報を流すだけでなく、移住を真剣に考えた時には話しを聞きたいと思う方は多い。そこで、空き家や耕作地などの情報を説明できる人材を置かないと進まないと思う。
会長	総合窓口を設置するだけでなく、様々な要望等をインフォメーションできる人材が必要となる。
委員	若い人、中年、年配の方、東京在住の方、近隣に住んでいる人、それぞれに遡及するポイントは異なる。若い人に来て欲しいと考えれば、仕事の話がついてまわってくる。こういう仕事があって、プラス自然があってと優先順位が変わってくる。何処の誰に来て欲しいかを明確にしないと打つ手が変わってくる。それを一緒にやってしまうと焦点がぼけて薄まってしまう。若い人に来てもらうのが第1優先順位であれば、そこにターゲットを絞って、仕事をどうするかは避けて通れない課題である。仕事をどうするかとなれば、企業を誘致するだとか、新たな産業を興すなどは理想論としてあるが、それだけでなく訴え

	<p>かけるには、1つはここでしかできない仕事とは何かを考えられればよいなど。もう1点は、どこでもできる仕事もある。作業をする場はどこでもよくて、住まいとしてクリエイティブな感性を湧かせる自然環境が大切になるような仕事。IT産業も、これだけ情報通信が発展していれば、どこでも仕事できてしまう。何処の誰、どのような仕事の方を呼べるのかを、現実的に考える必要がある。先ほどの朝市などは、人を呼び込むためのきっかけ、チャンスとして非常に重要であると思う。</p> <p>PRの方法を検討する必要はある。中野を移住候補先として入るには、少なからず接点があるはずである。知り合いがいる、観光で来たことがあるなど、全く面識がない方が移住してくれるとは思わない。個々にフェイスブックや旅館であればDMなど、個々のネットワークはある。これらのネットワークを繋げて、今までと違うネットワークを構築するのも面白いと思う。</p>
<p>吉原 アドバイザー</p>	<p>行政が行う支援は難しい面があるが、先ほどから話しに出ているチームづくりや個々で活動されている市民の方を繋ぐネットワークづくりに支援することは必要であると感じる。活動されている方々は、手法は違えど目指している方向は同じであるので、意欲ある方々を繋げればより活性化すると思う。住んでる方々が地域の魅力を発信する必要性は高い。</p> <p>また、広域連携という部分は重要である。中野は宿泊施設が少ない現状はあるが、周辺地域とともに、互いに良い面を活かした連携をしつつ、結果住む場所としては中野で発信していく。互いの強みを把握しつつ発信の仕方を工夫していくことも重要と考える。</p>
<p>会長</p>	<p><講評></p> <p>委員の意見は、戦略を肉付けていくためには重要な意見である。その中でも、具体的に取り組んでいく一歩としては、様々な業種の方が参加できる取り組みが必要と感じる。朝市といった意見があったが、以前からそのような取り組みをしているところもある。ただし、農家のみで実施しており決まった枠の中でしかやっていない。そういう意味では、飲食店や芸術家などが加わったりと、従来にないような新しい朝市ができれば、次のヒントとなるものも生まれてくるのではないかと感じた。是非、具体的に実現に向けた取り組みができればと思う。</p> <p>定住に際し重要なことは仕事である。2点に分けられるが、1つは地場産業を活性化する。もう1つは外から来てもらうこと。徳島県上山町のように、IT産業で活性化している地域もある。山村地域であるが、行政が積極的に施策を講じていること、結果的に人が集まり、人が人を呼び好循環が生まれている。他の地域にはない、中野のレベルで知恵を出し合って進めることが必要である。それにはネットワークが必要であり、これまでの個々のネットワークを活かして、小さい接点を大きなものに発展できるような取り組みをしていく。</p>

5. その他

前澤会長	その他について、事務局よりお願いします。
政策情報課長	次回の会議は9月29日（火）に予定しておりますので、別途通知いたしますが、ご出席をお願いいたします。
委員	具体的施策（案）として示していただいたが、具体的施策としてこのレベル感でよいのか。抽象度が高い気がする。
政策情報課長	それぞれの具体的施策の下に、より具体的な事業がぶら下がる予定です。

6 閉 会 (20:00)

前澤会長	以上をもちまして「第4回総合戦略会議」を開会します。
------	----------------------------